

施策名	目標4-1 国内及び国際的な循環型社会の構築					
施策の概要	循環型社会形成推進基本計画等を着実に施行して国内における循環型社会の構築を図るとともに、3Rイニシアティブに基づいて国際的な循環型社会構築を図る。					
達成すべき目標	循環型社会形成推進基本計画に基づき定められた、資源生産性の向上、循環利用率の向上、廃棄物最終処分量の削減等の目標を達成するとともに、3Rイニシアティブに基づき国際的に3Rを推進することにより、循環型社会の形成をめざす。					
施策の予算額・執行額等	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	
	予算の状況(千円)	当初予算(a)	457	465	640	
		補正予算(b)	328			
		繰り越し等(c)			(※記入は任意)	
		合計(a+b+c)	785	465	(※記入は任意)	
執行額(千円)	636	424	(※記入は任意)			
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)						

測定指標	1 資源生産性(GDP÷天然資源等投入量)(万円/トン)	基準値	実績値					目標値
		12年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	27年度
		約26	36.1	36.2	40.3			42
		年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-
	2 循環利用率(循環利用量÷総物質投入量)(%)	基準値	実績値					目標値
		12年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	27年度
		約10	13.5	14.1	14.9			14~15
		年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-
	3 廃棄物最終処分量(百万トン)	基準値	実績値					目標値
		12年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	27年度
		約56	27	22	19			23
		年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-

施策に関する評価結果	目標の達成状況	各指標とも順調に推移しており、平成21年度時点で、循環利用率及び最終処分量は目標を達成している。
	目標期間終了時点の総括	循環型社会形成推進基本計画に定められている、我が国におけるものの流れ(物質フロー)に係る指標は、3Rの取組の進展等により、目標に向け順調に推移しているが、他方で、①今後、世界全体で化石系資源や有用金属の資源制約が強まることが予想されること、②東日本大震災を契機として、安全・安心が確保された循環の流れを構築することがより重要となっていることから、これまで進展した循環の量に着目した取組に加え、資源確保や安全・安心の確保等の循環の質に着目した取組を進める必要がある。

学識経験を有する者の知見の活用	平成23年8月から8回にわたって開催した中央環境審議会循環型社会計画部会において、第二次循環型社会形成推進基本計画の進捗状況の点検を行った。
-----------------	--

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	「第二次循環型社会形成推進基本計画の進捗状況の第4回点検結果について」:環境省
---------------------------	---

担当部局名	循環型社会推進室	作成責任者名	永島 徹也	政策評価実施時期	平成24年6月
-------	----------	--------	-------	----------	---------